



# いのちの交錯

407715 岸田尚也 No.1



**敷地特性**  
所在地：愛知県名古屋市熱田区熱田西町  
用途地域：準工業地域  
東に名古屋の都市を貫く堀川、南側には自然豊かな日本庭園、西には大きな木々の生い茂る森の向こうに閑静な住宅街があり、北側にはかつての野木場の堀池が残されており、更に北には緑化された白鳥公園、名古屋国際会議場があり、敷地はこの自然に囲まれた中にある。

**アクセス**  
・名古屋駅→→→栄→→→神宮西→徒歩10分  
(地下鉄東山線) (地下鉄名城線)  
・名古屋駅→→→金山→白鳥橋・西町・一番3丁目→徒歩3分  
(名古屋鉄道) (市バス)

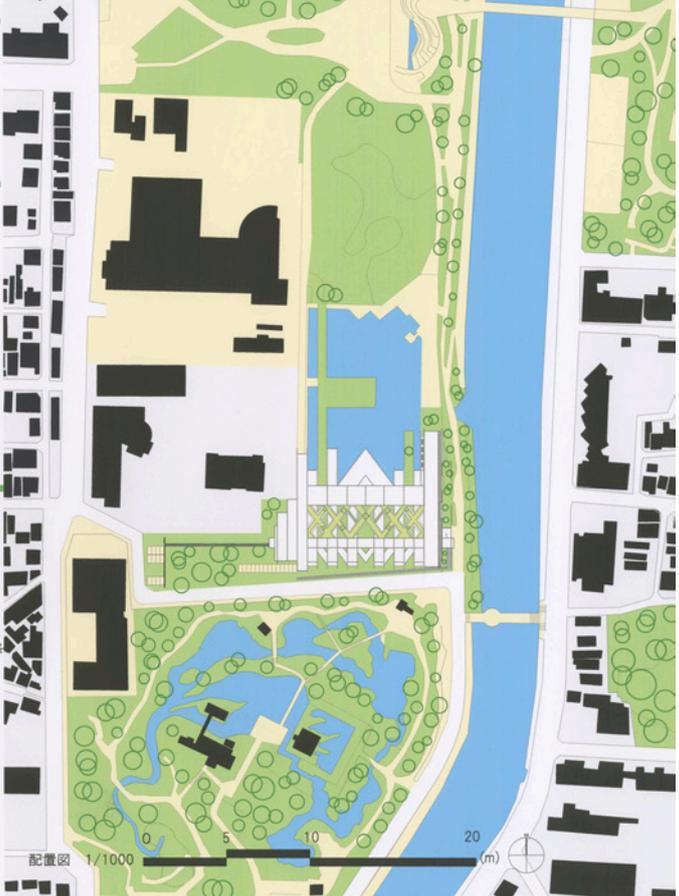
- 東海道新幹線
- 地下鉄名城線
- 名鉄名古屋本線
- 堀川
- 敷地予定地



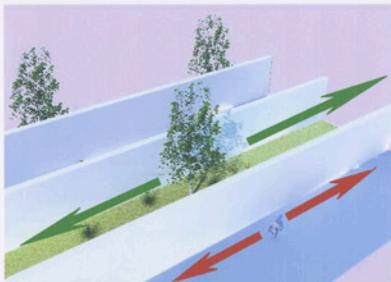
敷地より北側の堀池と広場を望む

**問題提起**  
2010年10月、愛知・名古屋で開催される生物多様性締約国会議(COPI0)を前に、世間では生物多様性保全の必要性が叫ばれている。特に地域のコミュニティを中心とした積極的な地域の取組が求められるようになり、地域住民の協力が求められている。それは地域住民に周辺の生物の分布について調査してもらうことで、普及啓発ができることにも、その調査結果は環境庁が行っている自然環境保全基礎調査の一環として、自然環境の現況とその変化を把握する重要な情報となるので定められつつある。生物多様性の保全のためには、それらの情報をもとに、守るべき自然、創るべき自然を把握し、都市計画へと結びつけ、生物が多様性を維持し育くするために、それらの生息地(ビオトープ)を結ぶつなぐ自然(生態的コリドー)を創らなければいけない。

地域住民がその調査の知識を学ぶための研修施設、  
そして  
都市化によって感じられにくくなった  
自然の存在を改めて感じられるように、  
河川に沿ってつなぐ伸びゆく自然が感じられるような  
自然体験型学習施設を計画する。



自然の空間を認識する形態～虚の壁



①層状にギャラリー（人の動線）と中庭（生態的コリドー）を並べ壁でそれぞれの空間を仕切り確保する。中庭は南北のビオトープをつなぐ役割を果たし、生物の大切な移動空間である。また重なり合う壁は無限に南北に伸び出る自然も表現している。



②壁に切り込みを入れ取り除く。人は壁のあった面に知覚的な境界を感じる。（黄色の面）それは最も薄く透明な壁であり、それぞれの空間を保ちながらも相互に浸透し合う。



③その切り込みを抜けるように屋根スラブを通す。人は壁によってできる空間を動きながら屋根スラブによってできる軸線に誘導され、その最も薄い壁と対峙し、向こう側の自然の空間の存在を認識する。



交錯する屋根スラブによってできた天井の穴は壁に挟まれた空間を切り取る。そこには非幾何学的な形の朽木や石を置く。幾何学的に切り取られた空間の中の自然物は芸術的に見える。そんな自然の一面を楽しみ感じるギャラリー



壁の間の知覚的に感じる境界。見えずとも存在する非常に薄く透明な壁。人はその向こう側に自然の道がある事を認識する。しかし、実際はひとつながりの空間、生き物は難なく通り過ぎ、ギャラリーを横切ったり、展示する自然物に潜んだりするだろう。そんな時、自然と対峙しながらも、自然の中に生きていることも体感する。

いのちの交錯

407715 岸田 尚也 No.3

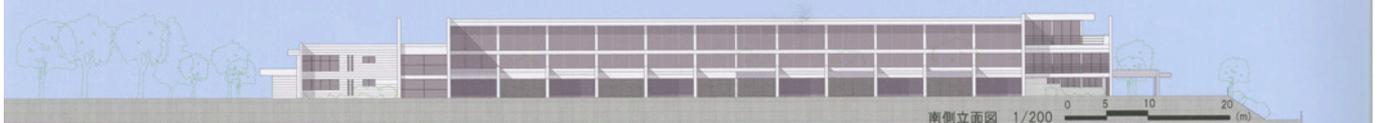
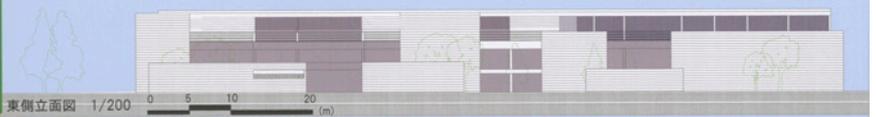


名古屋市のビオトープネットワーク(生態系コリドー)目標図

本敷地を含む生態系コリドーは堀川に沿って南北に通り、名古屋の都心を貫くものである。

このようにネットワーク化させることが生物多様性保全には大きな意味がある。

この建築の壁による軸線はこの伸びゆくコリドーの軸線を表現している。



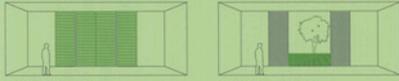
いのちの交錯

407715 岸田 尚也 No.4



研修室パース

研修室では講義、水質調査などの簡易実験、隣り合う中庭へ出てサンプリングなどの疑似調査体験を行う。その際にも格子戸による虚の壁を体感する。



<閉じているとき>  
格子とガラスにより、物質的に半透明な壁（虚の透明性）が感じられる。

<開いているとき>  
互いに噛み合った格子は視線の通さない壁の一部となり、その間には知覚的に透明な壁（虚の透明性）が感じられる。

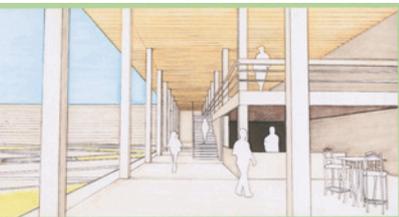
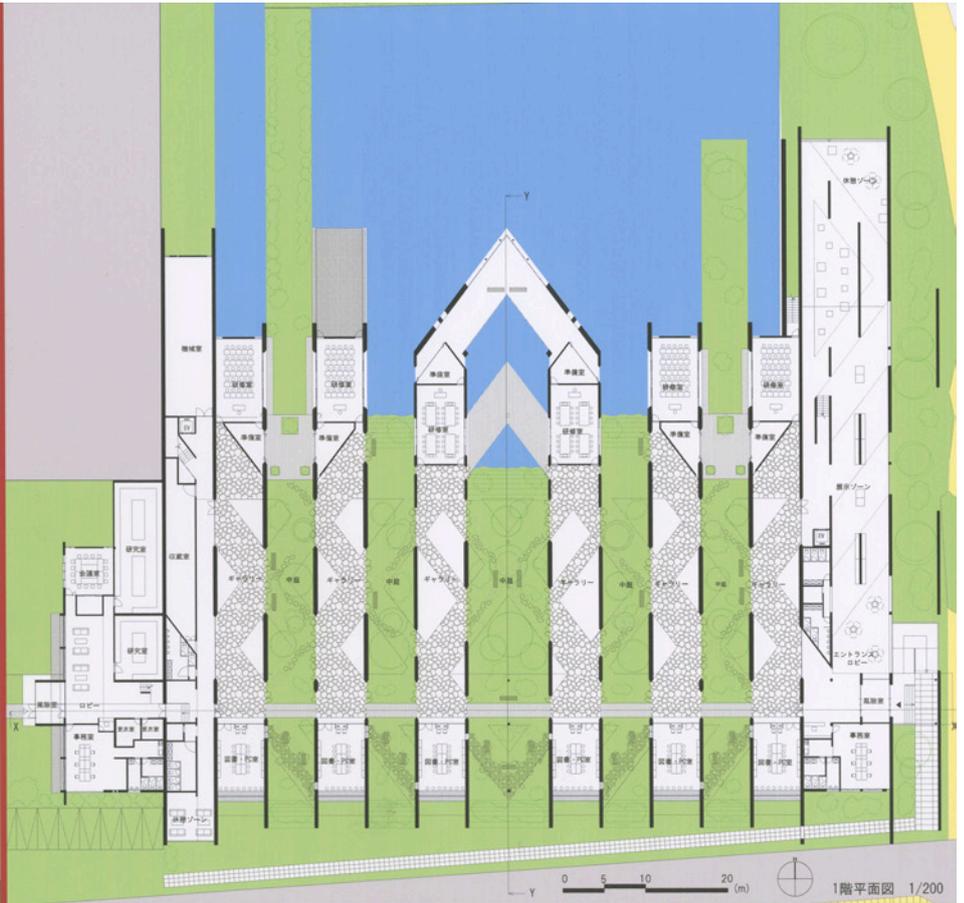


図書・PC室パース

部屋が層状に並ぶことによって納められている図書が生物類で分けられている。部屋に挟まれた中庭は部屋同士の連絡通路として、または外での読書・談話空間となっている。部屋が半地下であるので外の地面に生えている草花をよく見る機会を手える。

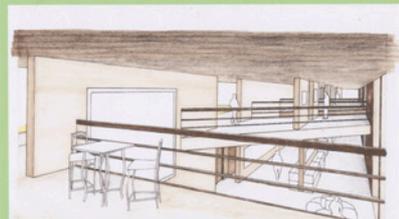


いのちの交錯



カフェレストランパース

北には堀池と緑地広場、南には屋上緑化された交錯する屋根スラブ越しに日本庭園の生い茂った木々を眺めることができるこのカフェレストランは、吹き抜けでホワイエと空間が一体となっており、ホールで講演会を聞き終えた人や、研修室で講習を受けていた人、地域調査から戻ってきた人、公園から立ち寄った人などが交わりあいながら休息できる空間となっている。



談話ゾーンから  
展示ゾーンを望む

談話ゾーンは一階のエントランスロビーと吹き抜けでつながれている。調査チームの持ち合わせ、調査の話し合い、用途に応じて可動式のパーテーションでその空間を仕切ることができる。

2階の常設展示ゾーンは一階から立ち上がる壁にパネル展示が主に行われるようになっており、生物に関わる解説と写真が貼られ、壁の隙間を通り抜けることで空間を切り替え、その展示の分類、内容が変わるようになっている。

